

2026年度

香川大学大学院農学研究科（修士課程）

食と環境保全特別コース

秋入学 国費・私費外国人留学生募集要項（日本語訳）

香川大学大学院農学研究科は、食と環境保全特別コースを開設し、秋入学国費・私費外国人留学生を募集する。

1. 設置目的

食料品の価格高騰や気候変動など、食料確保と環境保全の重要度が増している。本コースでは、食料自給率の向上や環境保全、食の安全確保などに貢献できる専門知識や技能を身につけ、かつ日本語と英語で高いレベルでのコミュニケーションが取れるとともに、日本企業のビジネススタイルを身につけた優秀なグローバル人材を育成する。

2. 求める学生像

設置目的をよく理解して、ビジネスで使う日本語及び英語を学ぶ意欲を持ち、かつ日本での学生生活に適応する能力を有する留学生で、主に海外へ展開する日本企業又は関連現地法人などへの就職、または博士課程への進学を希望する者。

3. 専門分野

入学志願者は、8～10 ページの「農学研究科教員名及び専門分野名一覧表」を確認し、希望専門分野及び希望指導教員を第1希望から第3希望まで選択すること。

4. 渡日前入学許可制度

「渡日前入学許可制度」とは、提出された書類及びインターネットインタビュー等により審査を行い、合格者の入学を許可する制度である。この制度を利用すれば、受験者は日本で試験を受けることなく入学許可を得ることが可能である。本募集については、「渡日前入学許可制度」を適用する。

5. 専攻及び募集人員

専 攻	募 集 人 員
応用生物・希少糖科学専攻	国費外国人留学生 3名 (ただし、1大学あたり推薦志願者は3名までを目安とする。) 私費外国人留学生 3名以上 (ただし、1大学あたり推薦志願者は3名までを目安とする。)

(注) 国費外国人留学生は、東南アジア（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）からの留学生が対象です。

6. 受入期間

2026年10月～2028年9月（2年間） 農学研究科(修士課程) 食と環境保全特別コース

7. 出願資格及び条件

(1) 資格：農学関連分野（農業、食品、バイオサイエンス、化学、植物、バイオ環境学、農業経済などの分野）の学部・学科などの大学を卒業した者又は、2026年9月までに同分野の学部・学科などの大学を卒業見込みの者。もしくは、それに準ずる者。

過去に本特別コースに入学した留学生の主な出身大学の一覧

ブラジル	ロンドリーナ州立大学
中 国	浙江工商大学, 南京農業大学, 中国農業大学, 香港大学
インドネシア	IPB 大学, ガジャマダ大学, ハサヌディン大学, ディボネゴロ大学, スマラン国立大学
フィリピン	サント・トーマス大学, アテネオ・デ・マニラ大学
台 湾	国立嘉義大学
タイ王国	アサンプション大学, カセサート大学, チェンマイ大学, チュラロンコン大学, モンクット王工科大学ラートクラバン校
メキシコ	グアダハラハラ大学
米 国	カリフォルニア大学デービス校
ベトナム	カントー大学, ハノイ工科大学, ベトナム国家大学ホーチミン市工科大学

- (2) 対 象：卒業校又は在学校の部局長（学部長等）以上の推薦を受けられる者で、英語で意思疎通を図ることが可能な者、かつ日本語能力試験 N4 【注 1】 レベル以上の日本語能力を証明する書類を国費での出願者は、2026 年 9 月初旬までに提出できる見込みの者、私費での出願者は、2026 年 7 月 15 日までに、提出できる見込みの者。また、国費での出願者は、ヨーロッパ言語共通参照枠 Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) B2 【注 2】 以上の英語能力または日本語能力試験 N2 【注 3】 以上の合格を証明する書類を出願時に提出できる者。私費での出願者は CEFR B1 【注 4】 レベル以上の英語能力を証明する書類を 2026 年 7 月 15 日までに提出できる見込みの者。併せて、次の 1)、2) のいずれかに準ずる者。

1) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2026 年 9 月 30 日までに修了見込みの者。

2) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む）により学士の学位に相当する学位を授与された者及び 2026 年 9 月までに授与される見込みの者。

【注 1】 日本語能力試験 N4・・・基本的な日本語を理解することができる。

【注 2】 Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) B2・・・自分の専門分野での技術的な議論を含め、その話題が具体的でも抽象的でも、複雑な文章の主旨を理解できる。

【注 3】 日本語能力試験 N2・・・日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。

【注 4】 CEFR B1・・・英語で意思疎通を図ることができる。

※参考 URL 日本語能力試験：<https://www.jlpt.jp/e/index.html>

※参考 URL CEFR：<https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/table-1-cefr-3.3-common-reference-levels-global-scale>

- (3) 国 籍：外国の国籍を有する者。（国費外国人留学生は、東南アジアからの留学生。）
- (4) 年 齢：1991 年 4 月 2 日以降に出生した者（2026 年 4 月 1 日現在で満 35 歳未満の者）
- (5) 健 康：心身ともに健康で、大学院における学業に支障がない者。
- (6) 学業成績：国費での出願者は学業成績係数を次に定める方法で求め、社会人は最終学歴の学業成績、在学学生は現在在籍する課程の学業成績係数が 3 点満点中 2.30 以上である者。
なお、国費で出願し合格した者は、在学中に学業成績係数が 3 点満点中 2.30 未満になれば、奨学金が停止され、授業料等が発生する。

[学業成績係数の算出方法]

下記の表により「評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて計算すること。

区分	成績評価				
4段階評価		優	良	可	不可
		A	B	C	F
		100～80点	79～70点	69～60点	59点～
5段階評価	S	A	B	C	F
	A	B	C	D	F
	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点～
評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

$$\{ (「評価ポイント3の単位数」 \times 3) + (「評価ポイント2の単位数」 \times 2) + (「評価ポイント1の単位数」 \times 1) + (「評価ポイント0の単位数」 \times 0) \} \div (総登録単位数)$$

【注1】履修した授業について単位制をとらない場合は、単位数を科目数に置き換えて算出すること。

【注2】編入学している場合は、編入学後の単位数を対象とすること。

【注3】上表の成績評価にない評価（例えば、「認定」、「合格」など）は対象としないこと。

【注4】学業成績係数に端数が出る場合は、小数点第3位以下を切り捨てること。

(7) 語学能力：

- 1) 英語で意思疎通を図ることが可能な者。国費での出願者はCEFR B2以上の英語能力または日本語能力N2以上を証明する書類を出願時に提出できる者。私費での出願者は2026年7月15日までにCEFR B1レベル以上の英語能力を証明できる者。
- 2) 私費での出願者は、2026年7月15日までに日本語能力試験N4レベル以上の日本語能力を証明できる者。国費での出願者は、英語能力CEFR B2以上の者は、2026年9月初旬までに日本語能力試験N4レベル以上の日本語能力を証明できる者。日本語能力N2以上の者は、2026年9月初旬までにCEFR B1レベル以上の英語能力を証明できる者。

なお、本特別コースでは、修了要件として日本語能力試験N2レベル以上の日本語能力とCEFR B2レベル以上の英語能力を必要としているので、下記のスケジュールで日本語と英語の学習が可能な者。ただし、就職支援希望の学生は、2027年9月末日までに日本語能力試験N3同等以上を取得すること。

国費での出願者

時 期	日本語能力	英語能力
(事前2次審査前) 2026年12月10日	CEFR B2以上の英語能力または日本語能力N2以上を有するもの	
(渡日前) 2026年9月初旬	日本語能力試験N4レベル以上（日本語能力試験N2以上の証明書を提出しなかった場合）	CEFR B1レベル以上の英語能力（CEFR B2以上の証明書を提出しなかった場合）
	※これらを満たさないと入学許可しない。	
2027年3月末日	日本語能力試験N3レベル以上	
2028年9月	日本語能力試験N2レベル以上	CEFR B2レベル以上

私費での出願者

時 期	日本語能力	英語能力
(出願時) 2026年1月		英語で意思疎通を図ることが可能
(渡日前) 2026年7月15日	日本語能力試験N4レベル以上	CEFR B1レベル以上の英語能力
	※これらを満たさないと入学許可しない。	

2027 年 3 月末日	日本語能力試験 N3 レベル以上	
2028 年 9 月	日本語能力試験 N2 レベル以上	CEFR B2 レベル以上

(8) 査証取得：渡日時に「留学」の査証を必ず取得していること。

8. 選考日程

日 程	内 容
2025 年 7 月 11 日(金)	募集要項公開
2025 年 8 月 1 日(金)～2025 年 11 月 7 日 (金)	出願資格事前審査書類提出期間 締切 2025 年 11 月 7 日 (金)
2025 年 11 月 25 日(火)～2025 年 12 月 5 日 (金)	出願資格事前審査（1 次審査）（書類審査、口頭試問（インターネットを利用した場合も含む））
2025 年 12 月 9 日(火)	出願資格事前審査（1 次審査）の結果発表・通知
2025 年 12 月 11 日(木)～2025 年 12 月 26 日(金)	出願資格事前審査（2 次審査）（口頭試問、インターネットインタビュー）
2026 年 1 月 6 日(火)	出願資格事前審査（2 次審査）結果発表・通知
2026 年 1 月 6 日(火)～2026 年 1 月 30 日(金)	希望する指導教員との受入れに関する相談
2026 年 1 月 6 日(火)～2026 年 1 月 30 日(金)	願書受付期間 締切 2026 年 1 月 30 日 (金)
2026 年 2 月 2 日(月)～2026 年 2 月 4 日(水)	選考
2026 年 2 月 12 日(木) (予定)	合格者発表・通知

9. 出願資格事前審査応募手続

応募者は、下記の書類を電子メール（email）で 2025 年 8 月 1 日(金)から 2025 年 11 月 7 日(金)（必着）までの間に香川大学大学院農学研究科（農学部学務係）へ提出すること。

(Email: gakumu-a@kagawa-u.ac.jp)

【注 1】これらの書類は、日本語又は英語で作成すること。原本が両言語以外で記載されている場合は、日本語又は英語による訳文を必ず添付すること。

(1) 入学志願票

(2) 出身大学（学部及び大学院）の成績証明書（出身大学で発行したもの）

【注 2】成績証明書は、大学学部、大学院の学年毎に取得した全科目の成績が分かるもので、かつ、その成績が何段階で評価されているか明確に分かるものとする。成績証明書に何段階評価であるか明記されていない場合は、大学発行の評価表を添付すること。ただし、画面のコピーは不可とする。

(3) 出身大学（学部及び大学院）の卒業証明書（出身大学で発行したもの）（既卒者のみ）

(4) 昨年度の家計支持者の年収を証明する書類

【注 3】家計支持者と申請者の関係が分かる書類を添付すること。

(5) パスポートのコピー

(6) 英語能力と日本語能力を証明する書類のコピー（証明する書類がある場合のみ）

10. 出願資格事前審査

(1) 1 次審査

書類審査及び口頭試問を実施する。

口頭試問では、食と環境保全特別コースプログラムに対する意欲、語学力（英語及び日本語）などの提出された書類、及びインタビューにより審査する。

インタビューは、直接口頭試問、又はインターネットを利用した双方向音声・画像通信のいずれかで行う。日時については、別途志願者に連絡する。

(2) 2次審査

1次審査を通過した者に対し、2次審査を行う。

専門分野の能力や素養、日本語の学習計画、語学力（英語及び日本語）などの提出された書類、及びオンラインインタビューにより審査する。日時については、別途志願者に連絡する。

11. 出願資格事前審査結果通知

(1) 1次審査

1次審査結果は 2025年12月9日（火）に電子メール（email）で通知する。

電話等による審査結果の照会には、一切応じない。

(2) 2次審査

2次審査結果は 2026 年 1 月 6 日（火）に電子メール（email）で通知する。

電話等による審査結果の照会には、一切応じない。

2次審査を通過した者は各自希望する指導教員と直接連絡を取り、綿密な実験計画を立て、研究計画を作成すること。指導教員との連絡方法については、別途通知する。

12. 出願手続

上記出願資格事前審査の結果、資格有と通知された者は、下記の書類を2026年1月6日（火）から1月30日（金）（必着）までに、香川大学大学院農学研究科（農学部学務係）へ提出すること。

【注】これらの書類は、ワードプロセッサソフトウェアなどを用いて日本語又は英語で作成し、印刷すること。原本が両言語以外で記載されている場合は、日本語又は英語による訳文を必ず添付すること。

出願時提出書類一式	注意事項	
(1) 申請書		
(2) 専門分野及び研究計画	応募者は、指導教員予定者と密接な連絡をとり、研究計画を作成すること	
(3) 学位論文の概要	A4 判紙で 2～3 ページ	
(4) 出身大学の卒業（見込）証明書	卒業（見込）年月が明記されているもの	
(5) 在職証明書	就職していた者のみ（アルバイトは除く）	
(6) 出身大学（学部及び大学院）の成績証明書（出身大学で発行したもの）		
(7) 本国の戸籍謄本又は市民権等の証明書		
(8) 日本語能力を証明する書類のコピー ※国費での出願者は、出願時に日本語能力試験 N2 以上の日本語能力を証明する書類のコピーを提出すること。（ただし、英語能力を証明する書類として CEFR B2 以上を証明する書類のコピーを提出した者を除く。） ※国費での出願者のうち、出願時に日本語能力試験 N2 以上の日本語能力を証明する書類のコピーを提出していない者は、2026 年 9 月初旬までに、日本語能力試験 N4 レベル以上の日本語能力を証明する書類のコピーを提出 ※私費での出願者のうち出願時に、日本語能力試験 N4 レベル以上の日本語能力を証明する書類のコピーを提出できない者は 2026 年 7 月 15 日までに提出すること。	原本の提出は必要なし	英語及び日本語の両方の証明書の提出が必要
(9) 英語能力を証明する書類のコピー ※国費での出願者は、出願時に CEFR B2 以上の英語能力を証明する書類のコピーを提出すること。（ただ		

し、日本語能力を証明する書類として日本語能力試験 N2 以上を証明する書類のコピーを提出した者を除く。) ※国費での出願者のうち、出願時に CEFR B2 以上の英語能力を証明する書類のコピーを提出していない者は、2026 年 9 月初旬までに CEFR B1 レベル以上の英語能力を証明する書類のコピーを提出すること。 ※私費での出願者のうち出願時に CEFR B1 レベル以上の英語能力を証明する書類のコピーを提出できない者は、2026 年 7 月 15 日までに提出すること。 (例：TOEIC, IELTS 等)		
(10) 写真 3 枚（最近 6 か月以内に撮影したもので 4.5×3.5cm。上半身、正面、脱帽、1 枚は申請書の所定の場所に貼付のこと。）	写真の裏面に国籍及び氏名を書くこと	
(11) 誓約書	国費・私費で様式が別	
(12) 推薦書	所属大学等の学科長レベル以上	
(13) 検定料	国費外国人留学生は免除 私費外国人留学生は、30,000 円（別途指示する所定の口座に振り込むこと）	
(14) これ以外に必要な書類がある場合は、別途指示する。		

13. 選考方法

提出された書類及び研究計画により最終選考を行う。

14. 合格者発表

2026 年 2 月 12 日（木）（予定）

合格者には合格通知書を EMS で送付します。

15. 入学手続

国費外国人の留学生の合格者は、別途送付する書類に必要事項を記入し期限内に郵送することにより入学手続を行う。所定の期間内に入学手続を行わなかった場合は、入学辞退者として取り扱う。なお、検定料・入学金および授業料は免除となる。

私費外国人留学生の合格者は、別途指示する期間内に入学金を納付し、入学手続を行うこと。（ただし、入学金免除申請を行う場合は、入学金を納付する代わりに免除申請書を提出すること）所定の期間内に入学手続を行わなかった場合は、入学辞退者として取り扱う。

納付金 入学金 282,000 円（予定）

なお、入学時及び在学中に学生納付金が改定された場合には、改定時から新たな納付金額が適用される。

（参考）授業料 前期分 267,900 円（予定） 〈年額〉 535,800 円（予定）

※授業料は入学後納付すること。ただし、授業料免除制度も有。

16. 入学時期

2026 年 10 月

17. 注意事項

- (1) 香川大学における講義、実験、実習等の研究指導は、原則として日本語で行われる。
- (2) 入学手続を完了した者は、原則として 2026 年 10 月 1 日（木）までに渡日のこと。
なお、日程等の詳細については、別途個別に通知する。
- (3) 日本でのアパートについては、香川大学より斡旋、紹介することが可能である。

- (4) 香川大学では「外国為替及び外国貿易法」にもとづいて「国立大学法人香川大学安全保障輸出管理規程」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から外国人留学生の受入れに関し、厳格な審査を実施している。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合があるので注意すること。
- (5) 語学能力を証明する書類を指定された期日までに提出できない場合には、入学を許可しない。同募集要項の7.出願資格及び条件 (7) 語学能力を参照のこと。

18. 奨学金と渡日費用

国費での合格者は、日本政府（文部科学省）奨学金（月額 144,000 円支給）を支給する。渡日旅費についても国内推薦者を除いて、航空券が交付される。

私費での合格者の渡日費用は自己負担とする。私費での合格者には、現在、下記の奨学金制度を設けている。申請方法については、入学前又は入学後別途通知する。

例) コンソーシアム参加企業からの奨学金

香川大学グローバル人材育成特定基金事業奨学金

香川大学外国人留学生奨学援助事業 奨学金

文部科学省外国人留学生学習奨励費奨学金

その他民間団体からの奨学金 など

19. 申請書類等の提出先及び本件照会先

香川大学農学部学務係 食と環境保全特別コース担当

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393

Email: gakumu-a@kagawa-u.ac.jp

Fax: 087-891-3022

HP: https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/afs_network/?lang=en

農学研究科教員名及び専門分野名一覧表

【食料生産学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
豊田 正範	作物生態生理学	作物の収量形成に関する生態生理学的・発育形態学的研究
武藤 幸雄	農業経済学	スマートフードチェーン構築を通じた農産物生産・加工・流通の発展可能性に関する研究
諸隈 正裕	作物栽培学	作物の有機栽培に関する栽培学的研究
川崎 淨教	動物栄養学	未利用資源の飼料化および動物の栄養生理、行動に関する研究
松本 由樹	家畜生体機構学	①腸管栄養吸収を制御する神経制御機構の解明と動物資源生産への応用 ②動物資源生産に有効な機能性飼料開発と飼育環境評価法の確立

【園芸科学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
奥田 延幸	蔬菜園芸学	蔬菜の発育制御並びに優良系統の育成・増殖
高村武二郎	園芸資源開発学	園芸植物遺伝資源の評価と育種への利用ならびに園芸植物の花色発現の遺伝的・環境的制御
別府 賢治	果樹園芸学	果樹の新品種開発と結実生理に関する研究
小杉 祐介	園芸利用生理工学	切り花・野菜の鮮度・品質に関わる生理特性およびその関連遺伝子の解析
鳴海 貴子	花卉園芸学	花き園芸植物の花の咲く仕組み、花形態制御機構の解明、新形質花き作出技術の開発に関する研究

【環境生態機能学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
一見 和彦	浅海生産環境学	沿岸域における一次生産者を主とした生物生産環境とそれに関わる物質循環過程について
伊藤 文紀	昆虫生態学	社会性昆虫の行動と生態（特にアジア熱帯におけるアリ類の多様性、侵略アリの生態に関する研究）
安井 行雄	進化生態学	動物（主に昆虫）の配偶行動や環境に対する適応について、ダーウィンの自然選択・性選択理論に基づいて研究している
山口 一岩	沿岸物質循環学	沿岸域における生物を介在する物質循環、エネルギー流の解析
山田 佳裕	生物地球化学	①水域における生元素循環に関する研究 ②水域生態系の評価法の開発
小林 剛	植物生態学	①陸生高等植物の生活史と生理生態 ②植物集団の構造と動態 ③生態系における生物間相互作用、生物多様性および物質循環
豊田 鮎	土壌生態学	落葉分解プロセス・植物生産を制御する土壌動物の機能解明

【生物分子化学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
佐藤 正資	生物活性化学	新規な生物活性物質の探索とそれらの作用メカニズム解明
鈴木 利貞	生物資源利用化学	生物資源のマテリアル利用とエネルギー利用に関する化学的研究
古本 敏夫	植物機能化学	植物成分の探索・利用・生成機構および植物機能に関する化学的研究
柳田 亮	生物有機化学	生物活性を有する天然物の探索とその作用機構に関する有機化学的研究
Kong Lingbing	希少糖有機化学	希少糖および希少糖誘導体の有機化学合成と、それらの化合物の創薬展開を目指した生物学的解析を行う
花木 祐輔	生物制御分子化学	創薬シーズ化合物の探索，化学合成ならびに作用機構解析
原 康雅	天然物化学	植物や微生物からの新規天然物および生物活性天然物の探索

【植物科学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
市村 和也	植物ゲノム機能解析学	植物免疫を含めた環境ストレス情報伝達機構の解析，およびゲノム機能解析
五味 剣二	植物防衛応答学	植物の病原微生物に対する防衛機構の遺伝子レベルでの解析
野村 美加	分子植物栄養学	植物微生物相互作用に関する生化学的，分子生物学的解析
杉田(小西)左江子	植物分子育種学	植物のゲノム情報を用いた有用遺伝子の遺伝解析，遺伝子単離および機能解析
望月 進	希少糖遺伝子工学	植物や微生物を用いた希少糖の生産，代謝および作用に関連する遺伝子の機能解析

【生命機能科学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
木村 義雄	微生物生理学	細菌における栄養，温度，浸透圧などの環境変化に対する適応機構の解明
末吉 紀行	分子細胞生物学	動物細胞における情報伝達，特に，タンパク質リン酸化・脱リン酸化を介した細胞内情報伝達機構の解明
杉山 康憲	動物細胞生物学	動物や動物細胞を用いた生命現象や疾病に関する分子機構の研究
田中 直孝	細胞生物学	真核細胞を用いた糖タンパク質の機能解析及び糖鎖生成機構の解析
田淵 光昭	応用分子細胞生物学	出芽酵母における膜ストレス応答の解析と酵母発現系による病原菌エフェクターの機能解析
渡邊 彰	微生物生化学	微生物，特にキノコ類が示す生命現象の解析（遺伝子・タンパク質レベルから個体レベルまで）とその応用面に関する研究
加藤 志郎	希少糖酵素工学	微生物の糖代謝酵素の機能解析と希少糖生産への応用および生物の特異なアミノ酸代謝システムの解明
松沢 智彦	酵素学	微生物の酵素を駆使した生存戦略の解明とその応用

【食品科学】

氏 名	専門分野名	おもな研究内容
小川 雅廣	食品タンパク質化学	食肉，食卵，魚介類，乳などの動植物性食品に含まれるタンパク質の機能改善に関する研究
高田 悟郎	応用酵素化学	微生物および酵素を用いた希少糖やオリゴ糖などの機能性糖素材の生産，微生物の生産する酵素の構造・遺伝子工学および発酵食品の機能性に関する研究
森本 兼司	応用微生物学	微生物および異性化・合成酵素を用いた希少糖の生産およびその分離技術に関する研究
YONEKURA LINA	食品化学	①食品の機能性成分の消化・吸収・機能性評価 ②オリーブ果実の加工法及び官能評価に関する研究
吉原 明秀	酵素利用学	微生物の生産する希少糖生産酵素およびそれら酵素を用いた様々な希少糖の生産に関する研究を行う
石井 統也	食品加工学	界面化学・コロイド化学的手法による食品加工に関わる諸現象の解析

(注) 以下のアドレスを参考に希望する専門分野を事前に確認して指導教員を選択すること。

日本語版：

https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/?page_id=110

英語版：

https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/english/?page_id=105